

宇都宮大学 共同教育学部

受験生・高校生と学部とをつなぐ高大接続メッセージ集

学校好き、集まれ! 第5号

(宇都宮大学は栃木県にある国立大学法人です)

2023年6月発行

●●●目次●●●

* 今号もこれまでのものも読んでみて ください	1	* オープンキャンパス連動企画	7
* 小学校での活動・小学生との触れあい	2	* 高3の夏休みと宇大受験	8
* 一人暮らし学生の感じる宇都宮	5	* 教員を目指す人に必要な思考力・判 断力・表現力	10
* 令和5年度入学生の出身都道府県	6	* 入試日程情報, 「解答場所」	12

今号もこれまでのものも読んでみてください

編集責任者より

第5号をお届けします。合格後の新入生にアンケートを取ってみると、このメッセージ集を受験時によく読んだと回答してくれる方がいて、編集者としてうれしく思います。メッセージを送る学生たちの出身高校なども記載しているので、ご自身の直接の先輩からのメッセージになっていることもあるでしょう。直接でなくても、一足先に大学受験をして合格した方々の具体的なメッセージは大いに参考になるはずです。

現在は多様な情報が大量に発信されているので、なかなかこのメッセージ集にたどり着くのは難しいと思います。ホームページであっても、探そうとしなければたどり着きませんから。そこで、これまで本学部を受験したことのある高校を対象に直接郵送しています。あなたの高校にも届いていると思います。関心があればぜひ所属する高校に確認してみてください。郵送後一定期間したら学部ホームページにも掲載します。

今回、読んでくださっている高校3年生の方々を対象に、7月に実施するオープンキャンパス(7/17)と連動した企画を行います。本メッセージ集の7ページの説明と問題とをご覧ください。ぜひ、今号だけでな

くバックナンバーも読んでいただき、宇都宮大学共同教育学部の学生や教員の様子をより知ってください。そして、オープンキャンパスの時にお会いして、記念品をお渡しできることを楽しみにしています。

<バックナンバーの情報>



第1号
(2021年9月発行)



第2号〔+α号〕
(2022年1月発行)



第3号
(2022年9月発行)



第4号
(2023年1月発行)

オープンキャンパスとの連動企画は、
7ページをご覧ください。



小学校での活動・小学生との触れあい

中学や高校の教員免許が多くの大学で取得できる中、国立大学の教員養成系では小学校教員免許が取得できることが大きな特徴です。本学部では小学校教員を意識できるように、2年生で「教職ボランティア入門」という実践授業があり、週に1回、母校や大学近隣等の小学校で経験を積みます。体験済みの3年生に、小学校での活動の様子や小学生との交流について語ってもらいました。

小学校教員になりたいと感じた貴重な時間

英語分野3年，栃木女子高等学校出身（栃木）

私は母校である小学校に週1回行きました。この場をお借りして、そこでの様々な体験と学んだことを紹介いたします。

私は低学年を担当しました。主な活動は、授業の補佐をすること、休み時間に子どもたちと遊ぶこと、運動会の手伝いをするなど、といったものです。

授業の補佐に関しては、教室の後ろから子どもたちの様子を観察して、授業内容につまずいている子どもの手助けをしたり、子どもたちのテストや問題集のチェックの補助をしたりしました。授業の補佐では、先生方の授業を実際に見ることが出来ます。これは、大学ではなかなかできないことです。どのように授業を構成しているか、子どもたちのどのような発言を拾っているかなど、大学での模擬授業や自身の教育実習に活かせることを見つけることができます。大学で学んだ知識や視点を振り返り、実際の授業とのつながりを考えることも出来ます。子どもたちの手助けをしながら授業を観察できる貴重な時間です。

小学生は外で遊ぶことが大好きです。そのため、長い休み時間はいつも外で遊びました。子どもたちと同じ目線で思い切り楽しむと、子どもたちとの関係が深くなる気がしました。たくさん遊んで、たくさん話して、子どもたちとの関わりを大切にしました。子どもたちと直接関わる機会は、大学生活のなかではほとんどありませんので、とても貴重な経験でした。

私はこの「教職ボランティア入門」を経験して、小学校教員を目指したいと思うようになりました。元気で素直な子どもたちと過ごした時間が、かけがえのないものになったからです。実習前に実際の学校現場を

見て、子どもたちと関わるができるのは、本共同教育学部のカリキュラムの強みであると思います。

実際の関わりだからこそ得られた学び

教育分野3年，日立北高等学校出身（茨城）

みなさんは、小学生と実際にふれ合うこと、学校現場での活動にどのような思いを持っていますか？私は教職ボランティア入門の前、小学生と仲良くなれるのかなど多くの不安がありました。しかし、実際に小学校へ行ってみると私の不安はなくなり、多くの学びを得た経験となりました。私の実体験の紹介で、「教職ボランティア入門」の良さや意義を少しでも知ってもらえたらうれしいです。

私は主に、特別な支援を要する児童が在籍する学級でボランティアを行いました。その中に、私がいることで緊張してしまい、日直の号令をかけられなかった児童がいました。話しかけてもなかなか反応してくれず、どのように関わっていけばよいのか悩みました。1週間に1回という限られた時間の中で、何気ない会話や授業の支援という接点を大切に、自分から積極的に関わることを意識しました。だんだん慣れてきてくれたのか、その児童の表情が明るくなったことに気づきました。前までは話しかけてもあまり反応してくれなかったのが、徐々に私の話をうなずきながら聞いてくれたり、うまく描けた絵を笑顔で見せてくれたりするようにになりました。休み時間には一緒に鬼ごっこをして遊び、ボランティア最終日には照れながらも笑顔で手を振って私を見送ってくれました。

最初はどのように児童に接して良いのかわからず、悩むこともあるかもしれませんが、児童のため

に一生懸命に努力する気持ちは必ず児童に伝わります。本格的な教育実習の前に子どもと関わり、成長を感じることができる経験はとても貴重なものです。「教職ボランティア入門」を通して、充実した経験をみなさんにもしてほしいと願っています。

多様な学年で経験を積んで

数学分野3年，石橋高等学校出身（栃木）

「教職ボランティア入門」の活動の仕方として、受入校のご事情やご配慮によって異なりますが、大きく2種類あるように感じます。1つは、学年やクラスを固定して活動していくという方法で、もう1つは学年やクラスを固定せず、全学年を担当して活動していくという方法です。

私が経験したのは後者で、全学年を担当して活動するという方法でした。この活動から様々な経験や学習をすることができました。そのことについて皆さんに話をしたいと思います。

活動の中で、先生方と直に接することができる中で、多くの先生方に評価方法について教えていただくことができました。特に図工で、実際に児童の作品に触れ、どのような点を評価するのか、どのような工夫に着目して他の児童に紹介したりするのか、といったことについて学べたことが、私にとって貴重な機会となりました。

さらに、席替えや校外学習の班決めなど学校生活の中でのイベントに際して、人間関係上気をつけるべきことや配慮しなければならないことがクラスの中にあるとき、具体的にどのようにするかについて先生方から教えていただいたこともありました。実際の職務の場でないと体験できない出来事であり、自分にとってとても良い学習になったことを実感しました。

全学年を担当できたことで、各学年の児童の特徴や学校生活の様子に触れることができ、学年差を理解することや学年間の流れやつながりを意識できたことが貴重な機会でした。また、刻々と変化する教育環境を直に体験できたことも良かったです。私たちが小学生の時には使われていなかった ICT 機器がどのように活用されているかを見ることができ、ICT 機器の導入

により休み時間の過ごし方など生活の様子も私自身の小学校時代とは異なることを痛感しました。教育実習や教員となって現場に出る前に、最新の教育現場を体験し、知ることができた良い経験となりました。

小学生って、魅力的

特別支援教育分野3年，真岡女子高等学校出身（栃木）

私は2年生と4年生を担当しました。感想として最初に出てくるのは、やはり「子どもたちはとても可愛い」です。子どもたちはワクワクキラキラした目で私たちを見てくれます。休み時間に外で一緒に鬼ごっこをしたり、教室で折り紙を折ったり、豆つかみ競争をしたり、とあっちこっちに引っ張りだこです。

活動内容は学校やクラスの事情によって多少異なるようですが、私の場合には、授業中は机間を回って問題に行き詰まっている子のサポートに入ることが多かったです。解き方のヒントを出したり、答えの丸つけをしたり、そのような子どもの学びに直接関われる体験することができました。

週にたった1度のボランティアですが、驚くほど子どもたちの成長を感じることが出来ます。1週間経つごとにクラスの一体感が出てきていることがわかるのです。子どもたちが、相手を否定せず「〇〇さんのいいね!」と褒め合ったり、「今は〇〇する時間だよ」と互いに自制し合ったりして、クラスの雰囲気自分たちで良くしようとしていることが伝わってきます。チャイムがならない学校だったので、時間を意識して時計を見て行動するし、タイピングは大人顔負けの速さだし、想像以上に小学生が大人であることに気づかされます。ボランティアに行く前は、教師は教える立場としか考えられませんでした。しかし、ボランティアに行ってみて子どもにハッとさせられることが多く、子どもたちと共に学び続けるのも教師として大事なことなのだと気づくことができました。

また、子どもたちはふとした時にイラストや折り紙で作ったボール、お手紙などのプレゼントをくれました。そういった子どもたちからの「好き!」や「ありがとう!」という気持ちを直接もらうことができるのも教師の魅力の一つだと思いました。子どもたちの意

外な姿も発見できるこの教職ボランティア。皆さんもぜひ共同教育学部で経験してみてください！

1年間という期間で実感できる子供の成長

英語分野3年、宇都宮北高等学校出身（栃木）

「教職ボランティア入門」、この実践活動は、子供たちの成長を学生のうちに体験することができ、教師という仕事のやりがいを感じることができる活動です。3年次で行く教育実習は、長くても3週間です。一方、この「教職ボランティア入門」は、通年で行くことができるので、子供たちの成長を長い目で見ることができました。

子供たちの成長を感じることができたエピソードをお伝えします。私は、小学校1年生の授業を見るが多かったので、休み時間には、1年生と遊んでいました。ちなみに、大学生は、歳も近いので、子供たちから人気が集まります。寄ってくるたくさんの子供たちと休み時間に元気に遊ぶと、自分が楽しいということだけでなく、先生方からも感謝されるのでとても嬉しかったです。

このように、休み時間は子供たちと遊んでいました

が、ボランティアに行った当初は、子供たちは一人ずつしたい遊びを言うてくるが多かったです。「私は一人だから、みんなの遊びを全部することは難しいな」と答えざるを得ず、むずかゆい思いをしていました。しかし、ボランティア終盤頃の1月ぐらいになると、子供たちは次のようなことを言えるようになりました。「休み時間まで、残り20分だから〇〇ちゃんのやりたい鬼ごっこを10分やって、△△ちゃんのやりたいブランコを残りの10分やろう」と。私はビックリしました。この前まで自分のやりたいことで、頭がいっぱいだった子が、自分のことだけでなく他の子のことまで考えることができていたからです。

このような経験を通じて、私は、子供たちの成長を間近に感じることでできる教員の魅力を見出すことができました。今読んでいる皆さんも、将来この「教職ボランティア入門」を受講することになるとと思いますが、やり始めの頃は長期間で大変だと思うかもしれませんが、しかし、長期間行くことでしか経験できない学びを得ることができる貴重な実践活動だと、私は思います。皆さんにとって子供の様子を実感できる1年になることを願っています。



学部の建物内には様々な学校からの依頼が掲示されています。2年次の「教職ボランティア入門」以降も自主的に活動を続ける学生も多いです。共同教育学部の学生のおこなう大きな地域貢献となっています。ボランティア募集を司っている「教職センター」において丁寧な支援があり、遠慮なく相談できます。

一人暮らし学生の感じる宇都宮

今年度も北は北海道から南は九州まであらゆる地域の出身のみなさんが本学部に入學しました。特に栃木県外の都道府県から宇都宮大学共同教育学部を志望する場合、大学生活の一人暮らしに思いを馳せる高校生も多いと思います。宇都宮は生活するには比較的恵まれていると編集者には感じられます。宇都宮で一人暮らしをしている2年生に、生活の様子を語っていただきました。

過ごしやすい街、宇都宮

技術分野2年，東京電機大学高等学校出身（東京）

私は東京から宇都宮に移って一人暮らしを始めましたが、宇都宮市の想像以上の利便性に助けられています。快適に過ごしやすい街だと感じています。

大学進学で初めて一人暮らしをする方が多いと思います。宇都宮での生活に対して、期待と、それ以上の不安を感じるのではないのでしょうか。私も去年は多くの不安を感じながら進学しました。しかし、大学周辺には生活必需品がすぐ揃うスーパーマーケットやコンビニ等が存在し、スタートにあたっての準備にはほとんど困りませんでした。家賃が懐に優しい物件も多数存在し、大学生協のサポートも受けながら、順調な一人暮らし生活が始められたと記憶しています。

一人暮らしにおいて、大きな不安要素は食事だと思います。しかし、宇都宮大学周辺にはおいしく安い飲食店が多く存在します。大学内の学食をはじめ、昼休みの時間に近くの飲食店で昼食を済ます学生も少なからずいるようです。時間的に自炊するのが大変なこともあるので、私も外食を上手く利用しています。

大学生として、勉強以外にも、アルバイトや交遊も重要な要素です。宇都宮には大型商業施設が存在し、カラオケや映画館などの娯楽施設も充実しています。近場だけでなく、公共交通機関も充実していて、バスや電車を利用することで、様々な場所を訪れることができます。アルバイト先も豊富にあります。

宇都宮には、餃子やいちごだけではなく多岐にわたった魅力が存在します。ここで紹介したことは、一大学生が感じた魅力にすぎません。ぜひ宇都宮に訪れて、あなたにとっての宇都宮を実感してください。

宇都宮で楽しい学生生活を送ろう！

教育分野2年，橋高等学校出身（福島）

一人暮らしをはじめ、私は宇都宮に来てよかったですと感じることがたくさんあります。特に、「住みやすさ」は宇都宮の一番のよさだと思います。駅や大学の周辺には、学生のお財布にやさしい定食屋さんやおしゃれなカフェがあったり、見ているだけで楽しい雑貨屋さんがあったりと、一人でも友だちとでも楽しめる場所がありますし、近くの川や田んぼがある道を散歩してリフレッシュするのもおすすめです。都会を楽しめ、自然の気持ちよさも感じられる宇都宮は、誰に聞いても「暮らすのに丁度いい」ところだと言います。

また、交通の便利さにも優れています。例えば、宇都宮から東京に電車1本で行くことができます。そのため、「もっと都会を感じたい！」という人は、東京に日帰りで行くこともできます。駅からは大学や大型のショッピングモール行のバスもあるため、雨の日でも安心です。さらに、私の実家は福島県にあるのですが、短時間（新幹線で約50分）で帰省できることや、時間に余裕のあるときは景色を眺めながら普通電車でも帰省できることもうれしいポイントです。

食べ物がおいしいというのも宇都宮の魅力のひとつです。宇都宮と聞くと、餃子やいちごのイメージが強いのと思いますが、それだけではありません。どんなものがあるか、宇都宮に来て、ぜひグルメ探しをしてほしいです。また、栃木県の郷土料理に「しもつかれ」というものがあるそうです。栃木に来たからこそ知ることができる文化を見つけていくのも楽しいです。

宇都宮での暮らしはとても快適で、楽しいことがたくさん待っています。住んで、さまざまな体験をし、一緒に楽しい大学生ライフを過ごしましょう！

令和5年度入学者の 出身都道府県(高校所在地)

令和5年度に入学した学生の出身高校を都道府県別に掲載します。北海道から九州まで様々な高校から入学がありました、今年度も全国からの受験を待っています。

<北海道> 札幌清田／釧路湖陵
 <岩手> 盛岡第三／盛岡中央／大船渡／宮古／花巻北／一関第一
 <宮城> 仙台第一／仙台第三／白石
 <秋田> 秋田中央／秋田南／本荘／大館鳳鳴
 <山形> 山形南／山形西

<新潟> 長岡
 <東京> 小平
 <神奈川> 橘学苑／相模原／秦野／茅ヶ崎北陵／関東学院

<茨城> 日立第一／日立北／茨城／水城／緑岡／鉾田第一／下館第一／下館第二／岩瀬日本大学
 <群馬> 太田女子／四ッ葉学園／高崎経済大学附属
 <福島> 橘／安積黎明／福島東／白河／尚志
 <埼玉> 春日部東／川口市立／蕨／昌平／聖望学園
 <栃木> 宇都宮東／宇都宮南／宇都宮北／宇都宮中央／鹿沼／鹿沼東／石橋／小山／小山西／栃木／栃木女子／栃木翔南／佐野／佐野東／足利／真岡／真岡女子／大田原／大田原女子／黒磯／矢板東／さくら清修／茂木／学悠館／作新学院／宇都宮文星女子／宇都宮短期大学附属／文星芸術大学附属

<長野> 諏訪清陵／上田東
 <静岡> 三島北／富士宮西／藤枝西／磐田南／浜名
 <富山> 富山
 <石川> 小松
 <福井> 北陸
 <愛知> 千種

<三重> 津
 <滋賀> 虎姫
 <大阪> 天王寺

<福岡> 筑紫丘／福翔



オープンキャンパス連動企画 ——メッセージ集を読もう！——

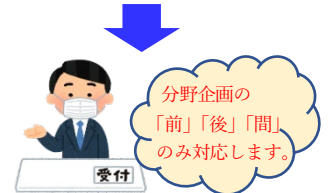
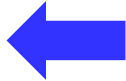
①この問題文を読み、バックナンバーを含めて該当箇所を見つける



②本メッセージ集の解答場所に答えの数字等を記入する



③オープンキャンパスに忘れずに書いたメッセージ集を持参する



⑥正解であれば記念品をゲット！
(先着 100 名 / 粗品で申し訳ありませんが)

⑤書いてきた答えを受付に見せる
(メッセージ集は持ち帰れます)

④メッセージ集の受付を探す(オープンキャンパスの受付近辺に場所を案内)

問題ア 2021年9月に発行された第1号より。「大学生活と場所」として音楽分野の学生が紹介していた場所の1つとして当てはまるのは？

- 1 図書館
- 2 正面玄関奥の机と椅子
- 3 ティーチングコモンズ
- 4 模擬授業室
- 5 大教室

問題エ 2023年1月に発行された第4号より。共同教育学部の教員の出身都道府県として、関東地方以外で最も多く回答数があったのは？

- 1 兵庫県
- 2 石川県
- 3 静岡県
- 4 新潟県
- 5 秋田県

問題イ 2022年1月に発行された第2号(+α号)より。「教採合格者」のメッセージの中で福島出身の学生が述べていた内容として当てはまるのは？

- 1 自分が学習したことの見える化をすること
- 2 自分一人で学習する時間を増やすこと
- 3 問いを次から次へたくさん立てること
- 4 一つのことを突き詰める習慣を作ること
- 5 先生たちのアドバイスにしたがうこと

問題オ 2023年6月に発行された第5号より(本号)。「小学生との交流」で、教育分野の学生が語っていた、ある子どもとの出会いの様子は？

- 1 気を引こうとして、いたづらをしてきた
- 2 仲良くなろうと、友達と一緒に質問してきた
- 3 あやしまれて、文句を言われてしまった
- 4 ほめられようと、真面目に勉強していた
- 5 緊張していて、日直の号令がかけられなかった

問題ウ 2022年9月に発行された第3号より。「他県から宇都宮に住んで」みて、静岡出身の学生のメッセージの中で書かれていないものは？

- 1 東京や東北へのアクセスが良い
- 2 LRTが開通して環境にもやさしくなる
- 3 駅西口にある昔からの繁華街の趣がよい
- 4 美味しい餃子屋さんが多数ある
- 5 自転車での移動がしやすい

★バックナンバーのURL (QRコード) は、このメッセージ集の **1ページ** にあります。

★答えの書き込み場所 (解答場所) は、このメッセージ集の **12ページ** にあります。

オープンキャンパスでお会いしましょう!!

高3の夏休みと宇大受験

このメッセージ集が高校に届くのは、間もなく夏休みという時期だと思います。高3の皆さんにとっては、受験に向けて本格的に準備する頃になりますね。宇大受験においても共通テストや小論文、面接等に向けて準備してほしいと願っています。早めの準備が合格に繋がりやすいのは、将来の教員採用試験でも同様です。ここでは、推薦入試や前期日程入試で合格した2年生がアドバイスを送ります。

苦手教科への少し違った向き合い方

数学分野2年，川口市立高等学校出身（埼玉）

〔前期日程入試での合格〕

大学受験を振り返ると、「受験科目数が多い」ということを私は一番不安に感じていました。私は得意教科と苦手教科の差があり、決して国立大学受験に向いているとは言えない感じでした。これを読んでいる方の中には、私と同じようなタイプの方もいると思います。私の体験談を通して、その方々の不安が少しでも軽くなれば幸いです。

私は理数教科が得意であり、英語・社会が苦手という典型的な理系です。宇大に志望校を決定した際にも担任に「苦手教科を伸ばす必要がある」と念を押されました。各教科の目標点を出した時には、苦手教科で点を取れる自信がなく、不安を抱いていました。

そこで私が行なったのは「得意教科を可能な限り伸ばす」ということです。苦手教科は点数を伸ばせる自信がそこまでなく勉強意欲も湧きにくかったため、まずは意欲のある得意教科を完璧にすることで、苦手教科に対する負担を減らすという考えに至りました。

夏休みには、理科の補講に参加したり、数学の問題集を繰り返し解いたりしていました。私は塾に行ったり、様々な問題集を買ったりはせず、学校から配られる教材を主に用いて学習していました。

このような勉強法を繰り返し、得意教科の点数が伸びていきました。すなわち、苦手教科の負担が減ったということです。夏休みが終わる頃には、苦手教科の目標点が「頑張れば取れそう」というところまで下がっていて、それらの教科への勉強意欲が湧き、休み時間に英単語や社会用語の暗記に取り組むようになり、結果的に宇都宮大学に合格することができました。

長々と体験談を綴りましたが、最終的に申し上げたいのは「必ずしも最初から全教科を完璧にする必要はない」ということです。私のように得意教科から伸ばすことで、苦手教科へのやる気に繋がることもあります。これからの受験勉強では辛いことも多いと思いますが、自分を信じて最後まで頑張ってください。

適度に息抜きを

教育心理分野2年，栃木翔南高等学校出身（栃木）

〔前期日程入試での合格〕

この記事を読んでいる皆さんは夏休み前でいよいよ本格的に受験勉強に差し掛かっている時期だと思います。この記事が少しでも皆さんのお力になれば幸いです。ここでは、勉強の仕方と受験期の日常生活に触れていきたいと思います。

まず私がこれまでやってきた勉強方法について、簡単にですがお話します。夏休みに差し掛かる時期はとにかく古語や英単語・文法、歴史事項の整理などの基礎固めを中心として勉強していました。それ以外にも苦手としていた数学に関して、問題を解くだけでなく教科書を読み込んでその理屈を含めて理解するようにしていました。

教科書や単語を中心とした勉強がある程度できたら問題集を中心に行っていましたが、必ず復習の際に教科書と照らし合わせるようにしていました。そうすると何度も教科書を読むことになるのでより知識を定着できたと思います。

次に、受験期の生活や心の持ちようを話します。皆さんは受験に向けて意気込んでいることと思いますが、ずっと勉強だけをやっていたら疲れてしまいます。勉

強が嫌で落ち込んでしまう日も出てくるかもしれませんが。そこで、私は家族と外食する時間や友達と話をする時間、部活に顔を出したりする時間を精いっぱい楽しみ、その時間に幸せを感じながら毎日を過ごしていました。「受験期つらいな」と暗いことばかりに注目するのでなく、楽しいことに目を向けてみると良いのかもしれません。

最初から自分に適した生活サイクルや学習方法を見つけることはできません。何度も様々な方法を試し、その中で自分に合っているものを選択することが大切だと思います。先が見えず不安も多いと思いますが、成績は受験の本番直前になってから上がってくることもあります。どうか焦らず、毎日の積み重ねを信じて続けてほしいです。応援しています！

隙間時間を大切に！

社会分野2年、新発田高等学校出身（新潟）

〔推薦ⅠA入試での合格〕

受験生時代の夏休みのことを思い出してみると、時間の無さに追い詰められていたなと感じます。

推薦入試を受験する人の中では珍しいかもしれませんが、私は高校3年生の夏休みは秋に行われる大会に向けて部活動にも参加し、部活動、推薦入試の対策、共通テストの対策を並行しておこなっていました。こ

のような夏休みを過ごしてみて、今思う大切なこととは、隙間時間を有効活用することです。当たり前のことかもしれませんが、この当たり前のことが受験勉強でとても大切だと思います。部活にも参加していることから、私は常に「他の人より頑張らないと合格できない。少しでも勉強の時間をつくらなきゃ」と考えていました。

そのため、いつもは休憩時間に行っている通学の電車の中や歯磨きの時間などちょっとした時間でも、苦手な英単語を覚えるなど勉強の時間に変えていました。しかし、全ての隙間時間に勉強をしていたわけではありません。頭がパンクしてしまいます。頭を休ませる時間も大切です。私は自分のルールで食事の時間は勉強しないと決めていたり、勉強の合間に頭を休ませたくなったらタイマーで時間を設定したりしていました。また、自宅だと集中できないため基本は学校や図書館で勉強して、家でその日1日の復習を少し行うような形で勉強していました。

高校3年生の夏休みは周り自分を比べてしまうなど、苦しい期間かもしれません。しかし、好きなように計画を立て、十分な時間を伸び伸びと勉強ができるのは夏休みくらいだと思います。夏休みが過ぎてしまうと、一瞬で受験になります。高校3年生の皆さん、自分なりの勉強方法を見つけ、推薦入試・共通テストに向けて諦めず頑張ってください！応援しています。



共同教育学部の入学者選抜

令和6年度の入学選抜についての詳細は、令和6年度(2024年度)入学選抜要項(2023.7月公表)にて確認してください。

共同教育学部 令和5年度入学選抜説明動画

令和5年度の入学選抜についてを説明した動画です。ご視聴はこちら

令和5年度入学選抜要項

令和5年度一般選抜学生募集要項はこちらをご覧ください。

宇都宮大学受験生応援サイト

こちらのサイトでは受験生へのお知らせや入試情報等を発信しています。

入学選抜に関するすべての事項は、宇都宮大学入試情報にて最新の情報を必ず志願者本人の責任で確認してください。

共同教育学部 HP 内の入試情報のページと QR コード。現在、本学部では推薦入試ⅠAとⅠB、個別学力入試前期日程の方法で選抜しています。方式に違いはあれど、学校教員を目指し、そのような教育課程で主体的に学べる受験生をお待ちしています。

教員を目指す人に必要な 思考力・判断力・表現力

「思考力・判断力・表現力」とは学習指導要領に示された資質・能力の三要素の1つです。皆さんが教師になって子どもたちのこれらの点を育てるためには、学校教員を目指す人自身がこれらの点をどのように身につけているかも大切です。本学部教員がこの点に関連してメッセージを送ります。

教員を目指す上で高校時代にしかできないこと

教育人間科学系教員

教員を目指す上で、本学に入り初めて知ることはいくつもあると思います。しかし、それは教員を目指す上で必要な思考力・判断力・表現力が大学でしか育まれないという意味ではありません。むしろ高校時代にしかできないこともあります。それでは、教員を目指す上で高校時代からできることは何だと思えますか？

この問いに対する答えの一つとして、私は多様な先生の授業や学級経営を観察することを挙げます。教員になると自身の担当する授業や学級経営で忙しく、他の先生の授業や学級経営をじっくり見る機会は少なくなります。本学でも豊富な実習の機会はありますが、それでも、教員になることを考えれば、観察することのできる授業はほんの一部です。しかも、実習では教員の卵として児童生徒に関わることとなります。ですから、高校時代は様々な授業や学級経営を「受け手」として観察できる最後のチャンスでもあるのです。

ただし、教員を目指す上で必要な力を鍛えるならば、観察する時の工夫も必要です。まずは今の授業や学級経営をよく観察し、「なぜこの授業やこの先生の指導はうまくいっているのだろう？」「自分ならどのような授業にするだろうか？」と問うてみてください。

もちろん、たとえばグループワークが魅力的な授業に関して、「グループワークを入れていたから良かった」だけで終わらせてしまうのは、もったいないです。グループワークを入れるときのタイミングや発問等、グループワーク一つとっても、多様な要素があります。

その多様な要素がどこにあり、効果的な方法が何であるかを分析する眼を高校生のうちから養う。そして願わくば、大学入学後や教員就職後にも参照できるよ

うに、今の考えを詳細に記録しておく。これは大学入学後や教員就職後の大きな財産になることはもちろん、今の考えを記録する過程で、高い思考力、的確な判断力、児童生徒の心を掴む表現力を獲得することにもつながります。教員を目指すことを自分事として捉え、今からできることを是非考えてみてください。

健全なる応用力は健全なる基礎の上に…

人文社会系教員

昨今、テーマにある3つの力の重要性がよく言われます。これらの力が重要であることは疑いありませんが、ともするとこれらのみが取り上げられることに対し、私はやや危うさを感じます。最も重要であるはずの基礎的な力を見落としてはいけないでしょうか。応用的な力は、基礎的な力があって初めて身につけられるものです。

こうした力は、教員にのみ必要なものではありません。大学で学問をするときにも必要です（3つの力だけではありませんが）。そして都合のよいことに、学問をすることで3つの力はおのずから身につくようになっています。ただし、それが「学問」と呼べる代物であるならば、です。したがって、効率的に3つの力を身につけるには、大学で学問と呼ぶに値する営みをするればよいでしょう。では、どうすればできるのか。

学問は知識が層を成して存在する体系です。地盤がスカスカなところにビルが建たないのと同様、基礎的な力がなければ学問はできないようになっています。基礎知識があやふやな状態で思考すれば、導かれる結論もあやふやであることは確実です。ろくな判断もできません。誤った内容ばかりアウトプット（表現）さ

れても困ります。教員に必要な云々と考えるよりも、まずは基礎的な力を養うことに注力してください。

では、大学の学問にとっての基礎的な力とは何でしょうか。言うまでもなく、高等学校までの学習内容です。大学入学試験の出題範囲がそうなっているのは、大学での学問に必要なだからです。注意したいのは、ここでいう「大学での学問にとっての基礎的な力」とは、必ずしも専門教科に関わる知識ばかりではないということです。日本文学・日本語学の研究をするために必要な知識は高等学校の古典や現代文の知識だけではありません。数学や英語の力も必要です。高校生の段階では、幅広くバランスよく学んでください。あと、できれば一つ一つの教科の面白さを実感しながら学ぶとよいですよ。学問には「知的好奇心」も求められるからです。

物事を多面的・多角的にとらえる力

生活・芸術・健康系教員

これを読まれる皆さんは、日々勉強に励んでいることと思います。なぜ、幅広い多種多様な科目を様々な方法で学ぶ必要があるのでしょうか？それに対する答えはきっとたくさんありますが、その中の一つに、物事を多面的・多角的にとらえる力を身に付けるため、というものがあります。

物事を多面的・多角的にとらえる力を身に付けることはなぜ重要なのでしょうか。例えば、ある一つの視点にとらわれると、情報に偏りやバイアスが生じ、客観的な判断や理解が制限されてしまいます。しかし、多面的・多角的な視点を持ち、さらには仲間と異なる意見や情報を統合することで、より広い視野で問題を理解し、柔軟な解決策を見つけることができます。これは、教員にとってもとても重要な能力です。

例えば、子どもたちは、それぞれに異なる背景や経験、能力を持っています。そういった子どもたち一人ひとりの個別のニーズや特性を理解し、適切な教育やサポートを提供するためには、様々な視点や角度から子どもたちを捉える力が必要です。

また、様々な視点でとらえる力は、多様性を尊重し包括的な教育環境を作り出す上でも重要です。様々な

個性を持つ子どもたちがいる環境で、教員はそれぞれの視点や経験を尊重し、包括的な学びを提供することが求められます。そのような時にも、様々な視点を持つことで、学習環境を豊かにする工夫ができます。

そして、変化の激しい現代社会の問題は、非常に複雑です。このような社会を生き抜くための力を子どもたちに身に付けさせるためにも、子どもたちに様々な視点から問題を分析させ、異なる解決策を考えさせることで、柔軟な思考や創造性を育むことができます。

物事を多面的・多角的にとらえる視点を身に付けていくためには、様々なことに幅広く好奇心を持ち、知識を広げること。そして、対話やディスカッションに積極的に参加し、他者との意見交換を通じて多様な視点を理解し、異なる意見や情報に耳を傾け、自分の考えを柔軟に見直すことが大切です。きっと、普段みなさんが授業のなかで実施していることがたくさんあると思います。日々の活動に新たな視点を加えて、より充実した学びにつなげてほしいと思います。

1)「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

各教科等に関する個別の知識や技能などであり、身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、既存の知識・技能と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、知識・技能の定着を図るとともに、社会の様々な場面で活用できる知識・技能として体系化しながら身に付けていくことが重要である

2)「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

問題を発見し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくこと(問題発見・解決)や、情報を他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと(協働的問題解決)のために必要な思考力・判断力・表現力等である。

特に、問題発見・解決のプロセスの中で、以下のような思考・判断・表現を行うことができることが重要である。

3)「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」

上記の1)及び2)の資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であり、以下のような情意や態度等に関わるものが含まれる。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryoy/attach/1364316.htm より一部抜粋

上の記述が学力の三要素と言われるものですが、どれもが大事ですし、また相互に関連しています。編集者の大学授業での経験においても、伝えた知識すら全く把握せずに好き勝手に表現しているレポートや試験答案を見かけます。主体的な姿勢を備え、必要な知識を得ている、得ようと努力することで思考や表現というものは輝きます。大学での授業のみならず、大学受験においても大事なことだと思います。

共同教育学部の令和6年度入試日程

★学校推薦型選抜 I IA ならびに IB

IA は各分野の専門性を活かした学校教員を目指す受験生のための入試、
IB は将来栃木県で小学校教員を目指す受験生のための入試です。

【試験日】 2023 年 11 月下旬【予定】

★一般選抜 前期日程

(共同教育学部では令和6年度は後期日程入試を実施しておりません)

【試験日】 2024 年 2 月 25 日(日)

※確定した試験日や出願受付期間等、詳細については 7 月に公表
される令和6年度入学者選抜要項でご確認ください。



入試についての情報は、大学から出る「入学者選抜要項」「募集要項」に全て載っています。漏れが無いようによく読んでください。

←宇都宮大学のホームページの入試情報

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/admission/examination.php>

8/4(金)

17:00-18:00

オンライン学部説明会を開催します！

遠方でオープンキャンパスには来場できない方も、この機会にぜひ。
詳細や手続は、学部ホームページ(下の QR コード)をご覧ください。

【解答場所(オープンキャンパス連動企画)】

下に書き込み、オープンキャンパス当日にこのメッセージ集を担当係にお持ちください。先着 100 名に記念品。

●7 ページ問題の答え [正解と思う数字を書き入れ]

問題ア	問題イ	問題ウ	問題エ	問題オ

●高校名 [記述]:

●性別 [○をつけてください]: (女 男)

●志望または関心のある系 [○をつけてください]:

(教育人間科学系 人文社会系
自然科学系 芸術・生活・健康系)

担当係用

宇都宮大学共同教育学部 メッセージ集

「学校好き、集まれ!」 第5号

2023 年 6 月 20 日 発行

発行者: 宇都宮大学 共同教育学部

[〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350]

編集責任: 川原 誠司(共同教育学部教員)

共同教育学部の
ホームページを
ぜひご覧ください。



<https://web.edu.utsunomiya-u.ac.jp>